JELA NEWS

ジェラニュース　第61号　　2023年8月15日　発行　　発行責任者　渡辺 薫

一般財団法人 JELA　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26　TEL.03-3447-1521　FAX.03-3447-1523　jela@jela.or.jp　www.jela.or.jp

難民支援事業 ／ 世界の子ども支援事業 ／ 奉仕者育成事業 ／ 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。（マタイによる福音書25章35～36、40節）

「JELA × UNHCR 駐日事務所 × ウェスレー財団」難民支援で協力！

CONTENTS

難民支援	ウェスレー財団が「難民専門学校教育プログラム（RVEP）に参画（P2）／「ウクライナ避難民支援報告会」を開催（P2）／寄稿：フィロクセニア奨学生 諸澤 明依さん（P3）
奉仕者育成	JELAカンボジア・ワークキャンプ2023：参加者感想レポート（P4~6）／インド・ワークキャンプ2024：参加者募集を近日開始します！（P6）
世界の子ども支援	カンボジアにソーラーランタン540台をお届けしました！（P7）／「JELA世界の子ども支援チャリティコンサート2023」全4会場で実施決定！（P7）
その他の記事	第17回川柳ひろば入選句発表！（P8）／シルバーボランティア募集開始（P8）／寄付者一覧（P8）／編集後記（P8）

日本の難民支援に新風！
ウェスレー財団が「難民専門学校教育プログラム（RVEP）」に参画

JELAとUNHCR駐日事務所が難民のために提供している「難民専門学校教育プログラム（Refugee Vocational Education Program – RVEP）」に新たに公益財団法人ウェスレー財団が加わりました。

RVEPは、社会経済的な理由で日本の専門学校に通うことが困難な難民のための奨学金制度です。2020年からJELAとUNHCR駐日事務所は、共同でRVEPを提供してきました。本年始まる来年度のための選考からウェスレー財団が参画してくださることにより、RVEPの支援枠が2倍に拡大します。

3月30日には、JELA、UNHCR駐日事務所、ウェスレー財団の三者で「難民専門学校教育プログラム（RVEP）」に関する協定書を締結しました。ウェスレー財団のホール（東京都港区）で行われた協定書の署名式には、JELAの古屋四朗理事長、UNHCRの伊藤礼樹駐日代表、ウェスレー財団の小海光代表理事が集いました。

署名式に臨む（左から）ウェスレー財団の小海光代表理事、UNHCRの伊藤礼樹駐日代表、JELAの古屋四朗理事長

ウェスレー財団は、メソジスト教会（ジョン・ウェスレー）の宣教師の働きをレガシーとし、「信仰と希望と愛を実践する」をモットーに公益活動を行っています。JELAと同じ「キリストの愛」を掲げるウェスレー財団が共に日本の難民支援事業に携わることは、社会的にも非常に意味深いことで、まさに新風が吹く出来事だといえるでしょう。

JELAは引き続き、UNHCR、ウェスレー財団と共にRVEPを通じて一人でも多くの難民の方に必要なスキルを身につけるための学びを提供できるように努めてまいります。

戦渦にある人々の必要を知るために
「ウクライナ避難民支援報告会」を開催

イベントの模様をYouTubeでご覧いただけます！

6月29日（木）、平日の夜の開催にもかかわらず、約40名の方がJELAのオンラインイベント「ウクライナ避難民支援報告会」に集まりました。ゲストスピーカーとして、昨年の「ウクライナの平和のために祈る会」でもお話しくださったイタリア・ミラノ賛美教会の内村伸之牧師をお招きしました。

ウクライナ戦争勃発直後から継続的に欧州における避難民支援に取り組んでこられた内村牧師ですが、今回の報告会では、オデーサやキーウ近郊の廃墟となった町で、支援のプラットフォームとなっている現地の教会に、支援物資だけでなく心の平安も求めて集う人々の心のケアについてお話くださいました。

戦争の影響で多くの人が霊的な飢え渇きを経験していて、支援物資の配給がない日でも、聖書の話を聞くためだけに多くの人が教会に集っているそうです。

今回の報告会はキリスト教を基盤とする市民合唱団「グレイス合唱団」との共催で行われました。合唱団からの寄付金に、皆様のお祈りとご寄付を合わせて、現地の必要のためにお捧げいたします。皆様のご協力をお待ちしております。

◀支援活動に従事する内村牧師（右から2番目）

～ 参加者の声 ～

- 「頑張ってらっしゃる生のお声を伺えてとても重く、でも必要な時でした」
- 「厳しい状況の中で、礼拝が守られ人々が熱心に救いを求めておられることに希望を感じました」
- 「ウクライナの人々のため、支援を届けるために働いておられる宣教師の方々のため、戦争の終結のため祈りたいと思います」

「外国籍を持つ子どもたちが健やかに、ずっと笑顔で過ごせるような社会を作りたい」（前編）

JELAフィロクセニア奨学生
諸澤 明依 さん

JELAは難民支援事業として給付型（返済不要）の奨学金を難民の方々へ支給しています。
今回は、明治大学で学んでいるミャンマーにルーツを持つ諸澤明依（もろさわ・めい、ビルマ語名：メイ チョトェイ）さんにご寄稿いただきました。
本号と次号の2回（前後編）で連載します。

◎奨学金の意義

高校生の頃に「理系の道に進みたい！」と決意し大学に進学しましたが、私が置かれていた家計状況では到底学費が賄えず、貸与型の奨学金等で何とか学費を工面していました。両親は私を心配させまいと気丈に振舞っていましたが、自分が一番家計の状況を苦しめているという自覚はあったので、一時期は大学をやめてしまおうかとまで考えることもありました。葛藤の中、やはりせっかく大学に進学したからにはどうにかして卒業までこぎつけたい、と必死に奨学金の募集を探していた中で、大学2年生の秋にJELAが難民の学生向けに奨学金を給付していることを知り、その後ご縁があって現在までフィロクセニア奨学金の奨学生としてご支援いただいています。

はじめてJELAという団体を知ったとき、「こんなに自分に合う奨学金ってあるの……？」と衝撃を受けたことを今でも覚えています。民間財団による給付型奨学金の大半は「日本国籍を有する者」という条件が定められており、当時は奨学金に応募すら出来ずに打ちのめされることが多かったため、フィロクセニア奨学金の募集を見つけたときは、どこか報われたような気さえしました。日本で学業を続けたいという強い意志を持つ難民の学生にとって、JELAがこのような給付型奨学金の枠を設けていらっしゃることは大変意義深く、たくさんの感謝の思いを込めて非常に大切な活動であると考えています。

また金銭面以外でも、JELAの交流会等を通じて自分と同じような境遇を持つ方々に出会い、新たなコミュニティを持つことができた点においても感謝しています。皆それぞれの環境で学業に一生懸命取り組んでいて、自分も頑張らなければと刺激を受けることも多いです。今後もこのようなJELAの活動が継続し、多くの難民に学びの場が提供されることを願っています。

◎大学で印象に残っていること

大学に入学して3年間はほとんどの授業が座学でしたが、昨年の秋に研究室に配属されてからは学業の形が大きく変わったような気がします。

4年生になる直前にドラッグデリバリーシステム※と呼ばれる考え方を元にしたテーマをもらい、現在は自分で作製した微粒子を細胞に取り込ませ、その様子を観察するといった研究を行っています。座学にしても今まで経験してきた実験にしても、大抵のことは少し考えれば長くても数時間見積れば終わる作業がほとんどでしたが、現在扱っている研究は作業時間が長かったり、また自分でゼロから考察を起こしていくことも多かったりと、初めての体験だらけでしんどくなることも多少ありますが、貴重な経験ができているなとしみじみ感じています。

たとえば、顕微鏡で「細胞に微粒子が取り込まれる様子」の画像1枚（大きくても10cm×10cm程度）を撮影するためには、微粒子を作製するのに1週間程度はかかりますし、そもそも用いる細胞は週2～3回程度こまめに培地を変えてずっとお世話をする必要があります（しかもすぐ死にます……）。中々大変ですが、最初はできなかったことが自分一人でできるようになったときは嬉しかったり、また今まで座学で学んだ“点”での知識が“線”になって繋がっていったりする感じが楽しく、やりがいも大きいです。

文系の方が所属するゼミナールももちろんそうですが、このような研究室での活動は大学における学びの醍醐味だと思うので、今私自身このような体験ができていることに感謝しています。　（次号に続く）

※ドラッグデリバリーシステム：標的部位に最適な時間、量の薬剤を届けるという考え方。

JELAの難民支援奨学金

JELAは、日本での自立のために勉学を志す難民の方々を支援するために、2つの奨学金プログラムを提供しています。

- **難民専門学校教育プログラム（RVEP）**　…… 応募締切：2023年8月31日（木）
  認定難民の専門学校進学を支援。UNHCR駐日事務所、ウェスレー財団との共同プログラム。
- **JELAフィロクセニア奨学金**　…… 応募締切：2023年10月31日（火）
  認定難民や難民認定申請者の日本語学習、高等教育等を支援。１人あたり年間最大120万円を最長4年間支給。

現在、両プログラムの**2024年度奨学生を募集中！** 募集要項等の詳細はホームページで … jela.or.jp/refugees

カンボジア・ワークキャンプ 2023 参加者感想レポート

実に3年ぶりの「JELAカンボジア・ワークキャンプ」が今年2月に開催されました。全国から集った10〜70代の参加者10名がキャンプ後に書いた感想レポートを、抜粋して掲載いたします。短く編集するのがもったいないほどの素晴らしいレポートばかりなので、ぜひ弊財団ウェブページから、その原文もご覧ください！
※学年はキャンプ参加当時のもの

◆One Team

森 英子（大学3年）

キャンプで最も印象に残ったのは、トゥール・スレン虐殺博物館とキリングフィールド、そしてカンボジアの人たちのエネルギッシュさである。同博物館では、犠牲者の生涯がどれほど過酷で、時の政権によって翻弄され、抑圧され、蹂躙されたものだったかが思いやられ、胸が苦しくなり圧倒されそうな感覚に襲われた。また、キリングフィールドでは、なぜこれ程酷い仕打ちができるのかと、人間の底知れぬ残虐性や狂気に対して恐怖を感じずにはいられなかった。悲しい歴史の一方で、現在のプノンペンの車やバイクの交通量、また若者を中心に活き活きと働く人々の姿からは、この国の上昇する気運をひしひしと感じられた。

また、通常の海外旅行とは異なり、毎晩ディボーションがあったことは、キャンプの特徴であり、貴重な時間だった。空港で初めて顔を合わせた私たちだったが、このディボーションとワークを通して、10日後には1つのチームになったように思えた。

◆初海外！ 濃密な10日間のキャンプ

古屋 若菜（大学2年）

私は、今回生まれて初めて国外へ出てカンボジアへ行き、10日間でカンボジアの深い歴史を学び、人々と関わり、建物に絵を描き、キリスト教に触れるという、普段の生活では絶対にできない貴重な経験をしてきました。その中でも特に印象に残ったことは、カンボジアの人々の笑顔と、やる気やエネルギーに満ちたカンボジアの活気、そしてキリスト教の考えに触れることができたディボーションの時間でした。

今回は私にとって初めてのことで溢れていて、不安がたくさんある中での参加でしたが、新しい景色と素敵な人々との出会いがあり、今まで生きてきた中で一番ワクワクし、充実した10日間を過ごすことができました。いつも素敵な笑顔で、何事にも熱量を持って積極的に取り組み、多様な考え方を否定するのではなく、まずは受け入れて理解しようとする、そんな人間になりたいと思うことができた、とても貴重な機会でした。

◆2度目のカンボジア・ワークキャンプ

本間 いぶ紀（大学4年）

ある夜のディボーションで、讃美歌「ここも神の御国なれば」を歌いながら、心がとても満たされるように感じました。私がこう感じたのは、カンボジアにあるルーテル教会を3つ訪問することができ、日曜日には現地の方と共に礼拝を守ることができたからです。礼拝では、私の隣に座る現地の方も、たとえ言葉の違いがあっても、同じメッセージを聞いているのだということを実感しました。そして、仏教国として知られ、その慣習が根強く残るカンボジアで、キリストの福音が述べ伝えられているということに福音の強さを感じ、ここも神の御国なのだと思いました。

私は今回が2回目のカンボジアワークキャンプへの参加でした。前回は「これからもカンボジアに関わり続けたい」と思ったことを覚えています。就職を控えた今、この「関わり続けたい」という想いを実現できて、またコロナと共にあった大学生活を経て再びカンボジアに心を向けることができて、本当に嬉しく思いました。

◆様々な表情のカンボジア

小林 優花（大学4年）

カンボジアに着いてまず感じたことは「街の賑やかさ」です。日本に比べ貧しいイメージがありましたが、首都プノンペンに行き交う車やバイクの多さに驚きました。他方で、悲惨な歴史が繰り返されてきたという事実も知りました。歴史に残る大虐殺のために、中年〜高年層が減り、現在のカンボジアの平均年齢が20代になったこと、それもあって国が発展しているということも学びました。また、アンコールワット訪問時には遺跡に銃弾の跡を見つけ、戦争がつい最近まで起こっていた事実を目の当たりにしました。

そんな暗い過去がある国ですが、カンボジアの人々はとても明るく穏やかで、笑顔が素敵な方が多い印象を受けました。まるで当たり前かのように、老若男女問わず目が合うとニコッと笑顔を返してくれます。私達はつい目に見えるものだけで物事を判断してしまうことがありますが、カンボジアの今と昔を知り、物事の表裏を客観的に見ることの大切さを学びました。

小林さん（左）

◆温かい奉仕をこの先も

多田 友里恵（社会人）

カンボジアでのワークキャンプから帰ってきて、日本の少子高齢化の問題や子ども支援政策に対して、カンボジアや他の国でのことを比較したりする様になりました。また、子供が多く、彼らや若い学校の先生、また街や観光地の活気から国全体の力強さやエネルギーを感じ、これからどんどん発展していく熱量を感じたカンボジアに対して、日本は整然としていて、国が成熟して疲れているような雰囲気を感じるようになりました。それらを通して、「日本はこのままだとどうなってしまうのか」と以前よりも真剣に考えるようになりました。

普通の観光旅行では得られない経験をさせて頂き、たくさんの気づきと学びを得ることができました。中でも、村の幼稚園や小学校を訪問した際の、とても温かい歓迎に触れ、ただ自分がそこにいるというだけで感謝してもらえる経験はとても嬉しく印象に残っています。今回もらった温かさを覚えて、自分が手を伸ばせる人に温かい奉仕をしていきたいと思います。

◆新しい自分はカンボジアに

工藤 孝啓（大学4年）

このキャンプで私は、ボランティアを行い楽しみながら支援すること、アンコールワットなどの遺跡訪問から歴史を学ぶこと、そしてディボーションにて聖書的観点から学びを深め、自身の成長に繋げることができました。

村の学校に新設されたトイレの壁にペンキで絵を描くボランティアでは、出来上がったトイレを見て笑顔になる子供が多数おり、やりがいを感じ素直に嬉しくなりました。また初めて訪れたアンコールワットやアンコールトムでは、1日では見きれないほどの広大さに圧倒されました。毎夜のディボーションでは、クリスチャンではない私にとっても、大学の講義で少し読んだ聖書に改めて触れ、その壮大さと、様々な学びを得ることができました。最終夜には自分のパーソナルな部分に改めて気づくこともできました。

このキャンプを通して、他の参加者から刺激と学びを得、普段はない様々な感情を覚え、自分も知らない自分に出会え、何よりもたくさんの思い出ができました。

◆人の意見を聞ける貴重な時間

青木 洋平（大学4年）

毎夜のディボーションは、クリスチャンでは無い僕からしたら、1日中活動した後になぜ夜まで話し合わなければならないのか、と初日から嫌気が差していた。聖書については、11日間読んでも正直わからなかったが、クリスチャンでは無い僕だから、他の人の意見や、クリスチャンである人の意見を聞けるのはとても貴重だった。その中で、キリストに派遣されている、ということを聞いた。自らの行いを派遣と表現して、神のお告げを信じて疑わず、神がいつでも見守っているということらしい。確かに無宗教の僕だけど、何かを応援する時、神様に祈っている気がする、腹痛の時もなぜか神に祈り、そして許してください、と懺悔している気がすることを思い出した。

ただ単に、日中ボランティアワークを行い、食事をし、観光をし、寝るだけでは、もしかしたら味気ないただの旅行になっていたと思う。毎日の出来事を振り返ることなんて二十歳を超えた今、自ら行わないため貴重な時間だった。

◆受け入れ、受け止めること

田中 碧（大学2年）

キャンプのワークでは、現地の方が、必要な道具も場所も全て用意して下さり、ボランティアをさせてもらっていたと強く感じられましたが、その夜のディボーションを通して、誰かを手助けする行為も一方的な思いだけではできず、互いの思いや歩み寄りがあるからこそ可能になることに気づきました。また、圧倒的な技術を届けるだけがボランティアではなく、誰かを思う気持ちを身体と共に届けることも、またボランティアなのだと学びました。

さらに、カンボジアの歴史に触れ、人に触れ、聖書を読み、人間の望む「平和」とは何だろうと改めて考えました。頭では良くない事だと分かっていても、自分の価値観で善か悪かを測り、理解できないものを除外しようとし、不条理なことがあると責める理由を探してしまう。そんな人間でも、まずは、受け入れ難いものを、受け入れ、受け止めるということを、頭だけでなく心から理解することが大切だと思いました。

◆「与える愛」に触れて

宮本 英（大学1年）

宮本さん（中央）

カンボジアの街で受けた刺激も山ほどありますが、ディボーションで受けた刺激は貴重な体験の1つでした。10日間、日々いろんな思いを抱きました。出会いや体験にうれしい思いや温かい思いをしたこともあれば、自分の無力さ、弱さに打ちひしがれる思いをしたこともありました。ディボーションの時間はそんな気持ちを整理する大事な時となりました。賛美をして心を静め、聖書の御言葉にその日の経験や思いを重ね、その体験、思いをどう捉えるべきかのヒントを得ました。その中でも一番心に残っているのは、このワークが、神の愛を分かち合うためのものであるということでした。神の愛とは「与える愛」であり、その愛は人とのふれあいの中で分かち合われる、ということを学びました。

今回、私がカンボジアの人々にしてあげられたことは本当に些細なことでした。しかし、彼らとの交わりの中には確かに愛が存在したと思います。どの瞬間も互いに神の愛を分かち合う豊かな時であったと思うことができるのです。新しい人との出会いと交流は愛を分かち合うときでもあること、これはこのキャンプで得た、確かで大きな学びでした。

◆「愛を運ぶ」ワークキャンプに参加して

谷口 和恵（社会人）

ワークと交流、これはキャンプの柱だ。ワークではJELAが関係する数か所の施設の建物にペンキなどで色を塗り、絵の得意なキャンパーのもと、みんなで富士山などを描いた。出会った子どもたちとは、一緒に折り紙を折り、サッカーに興じ、そこかしこで屈託のない笑い声が響き、人懐っこくきらきら光る彼らの瞳がとても印象的だった。

ディボーションに取り組むキャンパーたち

キャンプのもう一つの柱は毎夜のディボーションだ。聖書のみ言葉に聞き、内面を見つめその日の振り返りをする。日頃から聖書に親しんでいる者も、教会には行ったことがない者もいたが、チャプレンの多田牧師が語った聖書の御言葉は、どの人にもそれぞれの経験値の中で咀嚼され、心の深くに届いたのではないだろうか。「みなさんはそれぞれの思いでこのキャンプに参加されました。でも皆さんは自分をこの地に運んできたことで、確実に神さまの愛を運んでくださっている。出会った人々は皆さんを通して神さまの愛を見るのです」。神の愛を運ぶ、それは私にとっても新しい視点であり、嬉しい気づきとなった。特別な何かが出来なくても自分を通して神の愛が現わされるとしたらこんなに嬉しいことはない。

参加者の感想レポート全文をぜひブログでご覧ください！

インド・ワークキャンプ2024 参加者募集を近日開始します！

2019年以来5年ぶりに、インド・ワークキャンプの実施を予定しています！ 詳細は後日、ウェブサイトやSNS等で公開します。

【日程】2024年2月12日（月）～22日（木） 11日間
※国際情勢等により変更の可能性があります。

【派遣先】インド・マハラシュトラ州ジャムケッド村にある医療福祉施設「Comprehensive Rural Health Project」（包括的農村保健プロジェクト、CRHP）

【内容】義足作り／児童とのふれあい／毎日の学びの分かち合い（予定）

【対象】18歳以上の健康な方（高校生不可）

【参加費用】22万円
※「友達割引」……複数人でのお申し込みの場合、1人につき5,000円の割引となります。
※パスポート取得費用、海外旅行保険費用、派遣決定者説明会参加のための交通費、集合・解散場所と居住地等の間の交通費や、前泊・後泊する場合の宿泊費用については、上記の参加費とは別に個人負担となります。

【定員】10名（先着順）

カンボジアにソーラーランタン540台をお届けしました！

JELAは、パナソニック ホールディングス株式会社様のご支援により、インドとカンボジアの無電化地域にソーラーランタンを届ける活動を行っています。

2023年は、JELAのカンボジアの子ども支援のためにパナソニック ホールディングス様から540台のソーラーランタンをご寄付いただきました。

540台のソーラーランタンは、カンボジアにおけるJELAのパートナー団体、Life with Dignity（＝LWD、意味「尊厳ある生活」）を通じて、5月末にプルサット（ポーサット）州とコンポンスプー州の無電化農村地域の村人に届けられました。

プノンペンのようなカンボジアの都市部は目覚ましい発展を遂げていますが、農村にはいまだに無電化地域もあり、ソーラーランタンのような太陽光で

充電できて繰り返し使える製品は大変重要な生活支援物資となります。ソーラーランタンがあることで、子どもたちが日没後にも勉強できることはもちろんのこと、家族が夜間に経済活動を行うことも可能になるので、中長期的に人々の生活レベルが大きく向上します。

JELAでは定期的にソーラーランタンが生活向上にどのように役立っているかを調査し、パナソニック ホールディングス様に報告しつつ、ともに協力して子どもたちの未来を照らす活動を続けてまいります。

「JELA世界の子ども支援チャリティコンサート2023」全4会場で実施決定！

JELAは2004年以来、カンボジアやインド、ブラジルの子どもたちの教育環境改善のために「世界の子ども支援チャリティコンサート」を開催してきました。今年のコンサートは、カンボジアやインドの未来を担う子どもたちの教育支援のために、佐賀県と愛知県にある4教会を会場として開催します。

演奏は、ユーオーディア（クリスチャンのクラシック音楽家の団体）所属で、共にオーボエ奏者である**姫野徹**さんと**槙智子**さんをメインに、佐賀県のコンサートではファゴット奏者の**青木直之**さん、愛知県のコンサートではピアニストの**加賀都喜乃**さんがそれぞれ伴奏を務めます。

コンサートでは演奏だけではなく、出演者による証を交えたトークも予定されています。ぜひお誘い合わせの上ご来場ください！

いずれのコンサートも**入場無料**ですが、会場にてご寄付の呼びかけがございます。頂いた寄付金は、インドではスラム街に住む女児の中等教育のために、カンボジアでは農村部の未就学児のためのプレスクール建設のために用いられますので、ご協力いただけましたら幸いです。

会場に関するお問い合わせは、各会場教会にお願いします。

姫野 徹

槙 智子

青木 直之

加賀 都喜乃

第20回 JELA 世界の子ども支援 チャリティコンサート2023　公演日程

9月15日（金）午後1時30分
日本福音ルーテル小城教会
（小城ルーテルこども園との合同開催）
佐賀県小城市小城町小城本町170-2
TEL 0952-72-3221

9月16日（土）午後2時
日本福音ルーテル佐賀教会
佐賀市水ヶ江2-3-15
TEL 0952-65-2808

11月18日（土）午後2時
日本福音ルーテル知多教会
愛知県半田市堀崎町1-29
TEL 0569-21-2206

11月19日（日）午後2時
日本福音ルーテル名古屋めぐみ教会
名古屋市南区鳥栖1-15-32
TEL 052-821-3531

～オーボエ奏者 姫野 徹さんより～

「第20回 JELA世界の子ども支援チャリティコンサート2023」に出演させていただくことができますことを本当にうれしく、また神様に感謝しております。今回皆様に聴いていただきますオーボエという楽器は成り立ちの歴史が大変古く、特に音を出す為に必要なリードという発音体に使われている素材の葦はその存在が聖書の記述に出てくるほど人々の生活に身近なものでした。その音色にはいろいろな魅力がありますがどこか懐かしいものを感じるかもしれません。音楽は神様からいただいた贈り物といわれています。その天からのプレゼントをコンサートでみなさまと存分に味わってまいりたいと願っております。

【チャリティ・イベント会場募集中】

JELAではチャリティ・イベント（コンサート）を実施する会場を募集しています。教会や組織・団体の企画としてJELAのコンサートをお用いください。イベントを通じて、近隣の方々に教会や組織・団体をアピールするチャンスにもなります。JELAと共にチャリティを企画してくださる方、ご興味のある方は、JELA事務局（電話：03-3447-1521）までご連絡ください。ご応募お待ちしております！ 一緒にイベントを作ってWin-Winの関係になりましょう！

第17回 川柳ひろば 入選句発表！

次の三句が選ばれました（柏木哲夫選）。
今回は**およし**さんの作品が最優秀句に選ばれました。優秀句は、**とんちゃん**さん、**からくさるり**さんの作品です。
皆さん、おめでとうございます！

柏木 哲夫氏

＜最優秀句＞

老後用 貯め過ぎたのは脂肪だけ　（およし）

＜優秀句＞

嬉しさに照れも混じったバースデー　（とんちゃん）

雨あがり 庭に雫のネックレス　（からくさるり）

以下のような佳作もありました（川柳ひろば管理人選、柳名略）。時事ネタや生活に密着した話題、芸術性のある作品など多数の投句がありました。

- **日々上がる暑さと物価に目がまわり**
- **たよるなら「AI」ならぬ 神の「AI（愛）」**
- **ハンガリー EUなのに東向き**

「川柳ひろば」では作品を随時募集しています！ 件名に「川柳ひろば」とご明記のうえ、JELA事務局へEメール（jela@jela.or.jp）または郵便でご投句ください。本名での応募を希望されない方は、柳名（ペンネーム）を必ずご明記ください。皆様の作品をお待ちしております。（川柳ひろば管理人 奈良部 慎平）

支援者一覧
（2023年3月1日～6月30日）

（順不同・敬称略）
青木孝士/渥美千鶴子/淺野圭佑/阿部光成/安藤淑子/石森寿幸・京子/石原京子/市吉伸行/大岡よし江/太田立男/大塚眞佐子/大嶺愛持・裸覇武・十六夜/柿沢純江/鐘ヶ江和馬/京谷信代/倉知延章/小島拓人/小松由美/佐藤吉朗/佐野友美/杉本洋一/杉山美紀子/髙橋要子/高良研一/武井順太郎/田中淑子/辻裕子/鳥飼勝隆・豊子/中山純郎/西立野園子/野口久志/福嶌千惠子/福田邦子/福地明子/古屋四朗/保坂和子/堀切富紀子/益田直人/松岡俊一郎/棟方玲子/森保宏/安田やまと/山口敏子/山田芙美子/山本了/吉見憲明/渡辺聡/ｸﾞﾚｲｽ合唱団/
東洋英和女学院中高部宗教委員会/六本木聖書ﾌｫｰﾗﾑ/
善隣ｷﾘｽﾄ教会/新潟のぞみﾙｰﾃﾙ教会ｶﾀﾘｰﾅ会/JELC玉名教会

ご支援ありがとうございます。
匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集後記

キリストの愛で仕え、キリストの愛を世界に示す、それがJELAの創設者である宣教師たちからJELAが受け継いだDNAであると私は思っています。今年2月のカンボジア・ワークキャンプの感想を読んでいると、ゆっくりとではあっても着実に、キリストを伝える人が育ち、また活動を通してキリストを知る人が増やされていることを感じました。神はもとより、創設者たちの思いが無駄にならないように活動を継続することは、人間の力でかなうことではないことも思います。いかに世の中に困難が満ちていても、いかに神が良しとされないことばかりが進むように見える時でも、また、たとえ何も起こっていないように思うときでも、神はどんな時も働いておられる。本誌で掲載するJELAの活動は、JELAが中長期的に継続している活動の断片的な情報でしかありません。しかし、その背後には決してまどろむことなく働いておられる神がおられます。それが、JELAのこの働きを継続する原動力であり、皆さまにご協力や協働を呼びかける理由なのです。（渡辺薫）

シニアの皆さまへ！ お持ちのスキルや経験をJELAの活動に活かしませんか？

JELAの公益的活動には「難民支援事業」「世界の子ども支援事業」「奉仕者育成事業」がありますが、どの事業でも経験や知識に富んだボランティアの存在が欠かせません。そこでこのたび、JELAの活動にこれまで培った経験、知識、技術をシニアの皆さまからお借りしたく、シニアのためのボランティア登録制度を開始いたしました。
ご興味のある方は、件名に「JELAシニア・ボランティア」と明記の上、メール（jela@jela.or.jp）にてお問い合わせください。皆さんのご応募をお待ちしております！

経験やスキルの活用例

教員・教師・書道・塾講師
→ **子どもへの学習支援**
フランス語などの語学
→ **難民支援事業のオンライン通訳**
建築士・エンジニア
→ **海外支援で建築する建物への助言**

JELAを継続的に支える JELAサポーターを求めています！

年1,000円から！ クレジットカードによる自動定額寄付プログラムです。

詳しくは JELAサポーター で検索

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

JELAは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
SDGsは、2015年に国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

一般財団法人 JELA キリストの愛で 隣人に仕える
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel: 03-3447-1521　Fax: 03-3447-1523
https://www.jela.or.jp/　jela@jela.or.jp

寄付金のご送金先：
ゆうちょ銀行　口座番号：00140-0-669206（加入者名：一般財団法人JELA）
三井住友銀行　飯田橋支店 普通2896506（口座名義：ｲｯﾊﾟﾝｻﾞｲﾀﾞﾝﾎｳｼﾞﾝｼﾞｪﾗ）